



学校だより

ーしなやかで、たくましい

心とからだを育てる船二小ー

令和6年2月29日(木) No.11

江戸川区立船堀第二小学校 校長 則岡 小織

成長の喜びを称える

校長 則岡 小織



梅の花も開花し、校庭の水仙もずっと茎をのばして咲いています。時折降る雨にも温かさを感じる3月になりました。子供たちも水仙のようにずっと伸び心も体も成長しました。

「学校はどんなところ？」一人一人がその答えを明確にもって学校生活を送ることを願いながら、1年間を通して折に触れて問いかけてきました。「先生から学ぶところ」「友達と学び、遊ぶところ」「自分をのばしていくところ」

「思い出をたくさん作る場所」「たくさんの人が見守ってくれる場所」などが答えとして寄せられました。人は節目ごとに、振り返ることによって成長していきます。子供たちそれぞれが、「学校とは？」の答えをもっていたからこそ成長したのだと思います。

4月に入学した1年生は、生活科の学習でできるようになったことを互いに発表し合い、自分の成長と友達の成長と一緒に喜ぶ姿が見られました。2年生は、運動会・音楽会という行事を通してみんなで力を合わせることのよさを実感しました。3年生は、自分たちで考えて行動し時間を意識しようという姿が見られるようになりました。4年生は、出前授業や社会科見学等で人との関わりを通して学びを深め、自己に生かそうとする姿が見られました。5年生は、委員会の仕事を通して学校のために働くことの大切さを学びました。これらの成長には6年生の姿が大きくかかわっています。1年生のお世話に始まり、日々学校のために働く姿や、行事に力いっぱい取り組む姿などが在校生の手本となり、あこがれの姿となりました。

先日の「六年生を送る会」は、6年生に対する感謝の気持ちと、卒業おめでとうという気持ちが体育館中にあふれた心温かい会となり、巣立ちゆく6年生の思いを5年生がしっかりと受け継ぎました。中学校に向けて自信をもって送り出せるとともに、来年の船二小も安心して任せられることができたと感じました。

本校は、令和4・5年度の2年間、江戸川区教育課題実践推進校として「国語科」で研究を深めてきました。子供たちが目的をもって主体的に学ぶ授業実践のための授業改善に取り組んできた結果、国語の学力向上のみならず、他教科でも見通しをもって、学びを進めていく子どもが増えました。目的をもって、見通しを立てて学習するので子供たちの「できた」が増え、学ぶことの喜びにつながりました。これは、今年度の大きな成果と言えます。子供たちの自信をさらに大きく育てていけるよう指導してまいります。学力の向上には、毎日の宿題、study weekの取り組み、提出物等ご家庭の協力が不可欠です。ご協力いただきありがとうございます。

文部科学省より、学校の教育活動における総時数の上限を1086時間とするという通達に伴い、次年度の総時数を見直しました。今年度同様では上限を超えてしまうため、令和6年度から水曜日を全学年4時間授業とします。午後は、教職員の研修・教材研究等の時間とし、子供たちに「わかる授業」「楽しい授業」を提供できるようにしたいと考えます。ご理解・ご協力をお願いします。

学校に寄せられる電話や手紙等の多くは、なかなか厳しいものが多いのが現状で、頭や心を悩ませる学校や教員が多い中、本校に寄せられた一本の電話を紹介します。少し前になりますが、雪の降った翌日の電話でした。朝から主事さんを中心に、子供が転ばないように学校の周りや橋の階段等の雪かきをしました。それを見ていた保護者から「心配で登校させようか迷っていましたが、安心して送り出せました。ありがとうございます。」という趣旨の電話をいただきました。子供の安全のため当たり前のことをしただけですが、このような電話をいただくと心が温かく、嬉しくなりました。子供から、保護者から、地域から温かい気持ちをたくさんもらえるよう今後も取り組んでまいります。1年間のご協力ありがとうございました。